

第四学年年国語科学習百七指導案

指導者 武藤 美由紀

一 単元名 四 本と友達になろう

教材名 白いぼつし 本は友達 本のさがし方(光村 四年上)

二 単元について

1 第三学年及び第四学年の「こ読むこと」の目標は、「目的に応じて、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにすること」に、幅広く読書しようとする態度を育てる「こと」である。この目標に迫るためには、書かれてある叙述を基にして場面の移り変わりや情景、人物の心情を読み取る力、読み取った内容について自分の考えをまとめる力などを培っていかねばならない。

これまでの学習では、学習に対する子どもたちの目的意識を大切に、自分の読み取りの根拠を言葉に求めながら、言葉への気付きを大切にしてきた。さらに、言葉のもつ意味内容にとまらず、文脈における言葉の意味を読み取る学習を中心に据えてきた。このような学習を通して、子どもたちは単なる言語の意味理解だけでなく、とまらず前の場面とつなげて言葉の意味をとらえること、また段落同士のつながりについて理解することなどができるようになってきている。今後、自分の読みの視点をもとに自ら言葉とかわりながら文章を読み取る力をさらに身に付け、読み取ったことをもとに自分の思いを表すなど、個々の読みや語彙を豊かにできるような学習活動を展開する必要がある。

2 本単元は、場面の情景や登場人物の様子について叙述をもとにして読み、作品をより楽しみながら自分の感想を深め、そして自分の読書生活を広げていくことをねらいとしている。

教材「白いぼつし」は一貫して場面展開にさわやかさが貫かれている。それは、表現上の特色としておいや色を豊かに想像できる表現や、主人公の松井さんのあたたかく優しい人柄の描写が満ちているからである。本教材は大きく四つの場面に分けられる。一の場面では、夏みかんについて乗客の紳士との会話をもとに母親を思つ松井さんの人柄を浮き彫りにしている。二の場面では白いぼつしを見つけ、その中の方ようを逃がしてしまい代わりに夏みかんを置く松井さんの優しさや心遣いを読み取る。三の場面では女の子との出会い、ぼつしの持ち主の男の子とすれ違う松井さんを読み取る。四の場面では、男の子の驚く様子を楽しく想像し、たくさんの白いちょうの声を聞いている松井さんの様子について読み取る。子どもたちは、松井さんのタクシーに自分も同乗しているような心持ちで、登場人物の心情や場面の情景を楽しく想像しながら読み取り、ファンタジー的物語の展開に引き込まれ浸っていくのである。

また、本単元は「白いぼつし」で味わった作品世界の楽しさをきっかけに、読書活動への広がりや深まりへと発展していく。子どもたちにとって、作家の他作品や、シリーズものなど自分の興味をもとに読書への関心が広がる時期である。本とふれる場を意図的に設け、紹介カードを書いて交流する活動を行うことにより、自分の伝えたいことをはっきりとさせ表現する力も融合的に高めながら、いろいろな本との出会いを生むきっかけとなり、自分の読書の世界を多様にするものとなるであろう。

このように、「白いぼつし」の学習を通して作品に対する自分の読みを明確にしながら読む力を培い、それをもとに読書生活を豊かなものへと広げていく単元構成になっている。よって、子どもたちに身に付けさせなければならぬ力や子どもたちの実態から、この単元は適材であると言える。

3 指導にあたっては、次の点に留意していく。

一点目は、「白いぼつし」のもつ作品世界を、子どもたちが自分の感じ方や考え方を大切にしながら楽しく読むことができるようにすることである。そのために、初発の感想をもとに自分の読みの視点を明確にし、その視点に沿って自ら文章とかわりながら読み進めていく学習活動を組んでいく。自分の読みの視点を明確にするために、初発の感想を書いた後、文章全体を概観する。そして、「白いぼつし」に表現されている夏みかんのさわやかさ、松井さんの優しさ、あたたかさ、思いやり、不思議さといった物語を支えている要素を学び合い、一人一人がこれから読み取るための視点を明らかにもつことができるようにする。その視点に沿った読みは、松井さんの人柄や心情に結び付いていくものである。それぞれの視点から松井さんの人物像を読み取り、物語に流れているさわやかさへつなげていくようにする。

一点目は、個々の読みの視点で読み取る口頭学習の支援についてである。自分でどんどん読みをもって学習を進めている子どもには、その文章への着眼点のよさを取り組みの様子について称揚していく。また、どの子ども言葉に着目したり、文脈における言葉の意味を読み取ったりすることができるように、どのように言葉とかがわっていけばよいか戸惑っている子どもには、必要に応じてアドバイスカードを用いて支援していく。二点目は、個々の読みを交流する場面についてである。自分と同じ読みの視点でも友達の読みの違いや、自分と違う読みの視点での友達の読みについて学び合うこと（読み深め合い）によって、自分の読みを広げたり深めたりすることができるようにする。そのために読み深め合いの視点を明らかにして、個々の読みを交流し読み深めていく。また、読み深め合い後、自分の読みを振り返る場面を設けて、次からの学習での言葉へのかかり方をさらに充実させていくことができるようにしたい。

三 指導目標

- (1) 国語への関心・意欲・態度
- ・「白いぼつし」を楽しみながら読み、いろいろな本を進んで読むとする。
- (2) 書くこと
- ・相手や目的に応じて、自分の紹介したい本のよさを書き表すことができる。
- (3) 読むこと
- ・登場人物や情景の叙述を基に、松井さんの様子や気持ちを想像しながら読むことができる。
- ・自分の考えをもちながら読み、友達との違いやそれぞれのよさがあることに気付くことができる。
- (4) 言語についての知識・理解・技能
- ・表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解することができる。

四 単元の評価規準

「白いぼつし」での学習をもとにいろいろな本にふれ、進んで本に親しくしている。

自分の好きな本の楽しさやおもしろさを伝えるために、自分の考えをもって書くことができる。

松井さんの行動や色、においなどの表現に着目して、場面の移り変わりや情景、登場人物の様子や心情を読み取ることができる。

「おいや色を表している語句に着目して性質や役割の上で類別があることと、比喩が表現効果を高めていること」がわかる。

五 指導計画及び評価計画（全十六時間）

時	学 習 活 動	具体的評価規準	未達成の場合の手立て
1	学習の見通しをもち、全文を読んで初発の感想を書け。	・「白いぼつし」を読んで自分の感想を書いている。	・おもしろいと思ったところ、不思議に思ったところ、松井さんのことなど観点を与え、書くことができるようにする。
2	初発の感想を話し合い、全文を概観し、自分の読みの視点を明らかにする。	・全文を概観し、物語の展開に必要な要素の中から、初発の感想をもとにして自分の読みの視点をもっている。	・初発の感想で取り上げている内容を教師とともに一緒に振り返り、主人公の松井さんについて考えていくよう助言する。
3	場面ごとに自分の読みの視点に沿って読み取る。 タクシーに夏みかんをおいている松井さんの人柄について読み取る。	・場面ごとに、自分の読みの視点に沿って読み取っている。 夏みかんにこめられた松井さんや母親の思いを読み取っている。	・場面ごとの読み取りでは、必要に応じて学びの手順を示したり、アドバイスカードを用いたりしながら自分の読みをもつことができるようにする。
4 本時	白いぼつしを見つけ、ちょうつを逃がしてしまい、夏みかんを帽子の中に入れる松井さんの様子について読み取る。	松井さんの行動や夏みかんのさわやかさから松井さんの心情や人柄を読み取っている。	・読み深め合いの場面では、場面ごとに読み深める視点を教師から提示して、子どもが自分の読みを深めることができるようにする。
5	女の子を乗せて走り出す松井さんの様子について読み取る。 男の子の様子を想像しながら運転し、野原でちょうつを見ている松井さんの様子について読み取る。	女の子を乗せて走り出すまでの松井さんの心情を想像して読んでいる。 女の子を乗せた後も、男の子の様子を楽しく想像しながら走る松井さんの人思いのあたたかい人柄を読み取っている。	
6			

7	「白いぼつ」の学習のまとめとして学習後の感想をミニ新聞形式でまとめる。	・学習のまとめの感想を自分なりに工夫してまとめている。	・学習してよくわかったことや自分の好きな場面の紹介など書くための観点を示し、取り組むことができるようにする。
8	本の探し方を理解し、いろいろな本を探して読む。	・本を探すために必要な事柄を使って探している。	・読んでみたい本の種類を考えさせ、友達や教師とともに本を探すことができるようにする。
11	友達に勧めたい本を選び、紹介カードを作る。	・読み手を引き付けるよきな書き方の工夫（内容紹介、文章の抜粋、呼びかけの表現など）を入れてカードを書いている。	・紹介したい本の選定根拠を明らかにさせ、そのことを読み手に伝えるために必要な事柄として書き表すことができるようにする。
14	カードを互いに読み合い、おすすめの本を読んで感想を交流し合う。	・友達のカードのよさを見つけ、おすすめの本を読んだ自分の感想を友達に伝えている。	・紹介の本を互いに読み合い、一言感想カードを用いて感想を交流させ、紹介し合うよさを味わうことができるようにする。

六 本時の指導

1 本時の指導にあたって

子どもたちは前時で、夏みかんを媒体とした紳士と松井さんの会話に着目しながら、夏みかんを車に載せている理由や松井さんの母親の心遣いを優しく受けとめている人柄について読み取ってきた。

本時では、松井さんが夏みかんを白いぼつに入れるまでの行動について着目し、松井さんの他人に対する優しさを読み取ることを行っていく。

子どもたちは「夏みかん・松井さんの優しさ・思いやり・ちよつ」といった自分の読みの視点をもとに、主体的に言葉とかかわる自己学習の場面の設け、自分の読みもち、それをノートにまとめる学習を行う。この場面での教師の支援として、言葉に着目して読む子ども、文章展開に沿って読む子どもなど、子どもの読みの着眼点のよさを取り上げながら励ましや助言を行っていく。また、自分の読みをなかなかもてずとまどっている子どもには、その手立てとして、アドバンスカードを用いて自分の読みの視点にそってどのよつに言葉や文に着目すればいいのか、手がかりを示し、取り組むことができるようにする。

読み深め合いの場面では、視点の違う友達を読みを聞き合うことによって自分の読みとの共通点や相違点について考えさせる。このとき、教師は読みの視点が変わる子どもの読みをどのようにつなげていくか、読み深め合いの視点を設定して行っていく。本時では、夏みかんを入れた松井さんの行動と入れた理由を読み深め合いの視点とする。そして、それぞれの視点の子どもの読みをかわらせ関連付けられることによって、夏みかんは松井さんの心情とかかわりがあり、物語にさわやかさを生み出す表現効果になっていることに気付かせていく。交流後には自分のノートをもう一度見直しして、自分の読みを書き加えるなど、自分の読みについて振り返る場を設けていく。

2 本時のねい

- ・松井さんの行動に着目して、男の子の心中を察して夏みかんを入れる優しい人柄を読み取る。
- ・夏みかんの描写に着目して、男の子にどんな気持ちを抱えたか考えたのか考え、松井さんのあたたかい心情を読み取る。

3 展開

前時の学習内容 五時～十六時

- 乗客の紳士と松井さんの会話から夏みかんを乗せている理由を見つけ、松井さんの心情を読み取る。
- 紳士との会話文に着目し、松井さんがどんな表情で説明しているのか想像し、松井さんの人柄や心情を読み取る。
- どんな夏みかんなのか、母親の松井さんへの愛情を読み取る。

学習内容と学習活動	時間	指導上の留意点（個への支援）
<p>1 本時学習課題を確認する。</p> <p>松井さんの「白いぼつ」について考えよう。</p>	3	<p>本時学習場面や学習の流れを確認し、松井さんの行動から松井さんの人柄と心情と夏みかんのかわりを読み深めていく学習であることを確かめる。</p>

<p>二 自分の読みの視点に沿って課題を解決する。</p> <p>(1) 学習場面の音読をする。</p> <p>(2) 自己学習をする。</p> <p>【子どもたちの読みの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松井さんの優しさ ・松井さんの思いやり ・夏みかんと松井さんのかかわり <p>(3) ノートにまとめたことを発表し合 い、読み深め合いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松井さんの行動の理由 ・松井さんにとっての夏みかん <p>四 本時学習のまとめをする。</p> <p>(1) まよめの音読をする。</p> <p>(2) 今日の学習で分かったことを発表 する。</p> <p>(3) 次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>3</p> <p>1 2</p> <p>2 0</p> <p>7</p>	<p>本時学習場面を二名の子どもに音読させる。自分の読みの視点と照らし合わせながら気を付けて読ませる。</p> <p>松井さんの優しさや思いやりについて読みの視点にしている子どもについては、松井さんの行動に着目して自分の読みをノートにまとめさせる。</p> <p>夏みかんのにおいや色について読みの視点にしている子どもについては、その表現に着目して夏みかんの様子や松井さんの心情について自分の読みをノートにまとめさせる。</p> <p>どのような叙述に目を向けていけばよいのか分からないでいる子どもには、松井さん、夏みかんそれぞれの視点にそって、アドバイスカードを用いながら言葉への意識付けを図っていく。</p> <p>【松井さんの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ松井さんは小さなぼつしをつかんでため息をついたのでしょうか。 行動に着目する言葉を挙げて <p>【夏みかんの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まよめ〜見事な色でした」から、どんな夏みかんであることがわかるでしょう。 比喩表現に着目して <p>自分の読みの視点に沿って積極的に言葉とかかわりながら自分の読みをもちことができたか(ノート)</p> <p>それぞれの読みを自由に発表させていく。読み深め合いの視点は次の通りとする。</p> <p>「急いで車にもどりました」「石でつばをおさえました」などの松井さんのもつた行動の理由を考えさせ、松井さんの優しさや思いやりを読み深める。</p> <p>松井さんにとって夏みかんはどんな存在だったのか、その夏みかんを帽子の中に入れたのはなぜかについて考えさせ、夏みかんと松井さんのかかわりから松井さんの人柄へつなげて読み深める。</p> <p>必要に応じて、教師から意図的に個々の読みを紹介しそのよさを位置付けたり、言葉への気付きを価値付けたりしていく。</p> <p>読み深め合い後、自分の読みを振り返らせる。</p> <p>【評】 読み深め合いに対する目的意識をもって、自分の読みを深めているか(発言・ノート)</p> <p>今日の学習での自分の読みの深まりについてノートに振り返りを書かせ、発表させる。</p>
<p>次時の学習内容</p> <p>松井さんの行動や様子に着目した文章構成をもとに、これまでの場面展開と女の子の様子をつなげて読み取る。</p> <p>・逃げたまよめが女の子になってタクシーに乗り込んできたこと「気付く」。</p>		